

2020年度 WAFCA 車いすクライアントの生活の質(QOL)調査報告書
(タイ、インドネシアにおける車いすサービス提供事業)

アジア車いす交流センター(WAFCA)
アジア車いす交流センター・タイランド(WAFCAT)
アジア車いす交流センター・インドネシア(WAFCAI)

1. 調査の背景

WAFCA、WAFCAT、WAFCAI は、障がい児とその家族の生活の質(QOL)レベル、すなわち個人が健康的かつ快適にライフイベントに参加し、楽しむことができる程度の向上を目指し、共通のビジョンとミッションの元に活動を行っている。

WAFCA グループビジョン 2030

アジアの障がい児一人ひとりに寄り添い、自立へ導く実効性のある環境づくりに取り組む

ミッション

- ・ 一人ひとりの障がいや成長に応じた車いす、補助装具の提供
- ・ 障がい児の自宅、通学校、コミュニティのバリアフリー化促進
- ・ 障がい児、家族、教師、コミュニティへの能力向上研修の開催
- ・ 障がい児が社会参画できるまで継続する奨学金の提供

上記の共通ビジョン、ミッションに対する社会的インパクトを測るため、WAFCA、WAFCAT、WAFCAI は 2020 年度の車いすサービス提供事業の被受益者(車いすクライアント)を対象にアンケート調査を実施した。ただし、QOL レベルの変化を測るためには、同じ対象グループに対して来年度以降も継続的な調査が必要である。

2. データ収集(2020年4月～2021年3月)

- ・ WAFCA は WHOQOL-100 に基づき 11 項目 40 問のアンケート調査票を作成した。

1) 痛み管理	2) 自己認識	3) 日常活動
4) 医療/社会サービス	5) 環境	6) お金
7) 移動	8) 人間関係	9) 余暇
10) 情報/教育	11) 仕事	
- ・ WAFCAT、WAFCAI は車いすクライアントに対面もしくはオンラインアプリ(Google Form)を利用してアンケート調査を実施し、WAFCA へ結果を報告した。

3. 調査対象人数(車いすクライアント)

	調査対象数	回答数	回答率
タイ	102人	71人	70%
インドネシア	280人	100人	36%

◆ 回答者の障がい程度別内訳

	軽度	中度	重度
タイ (71人中)	22人	26人	23人
インドネシア (100人中)	30人	45人	25人
割合 (%)	30%	42%	28%

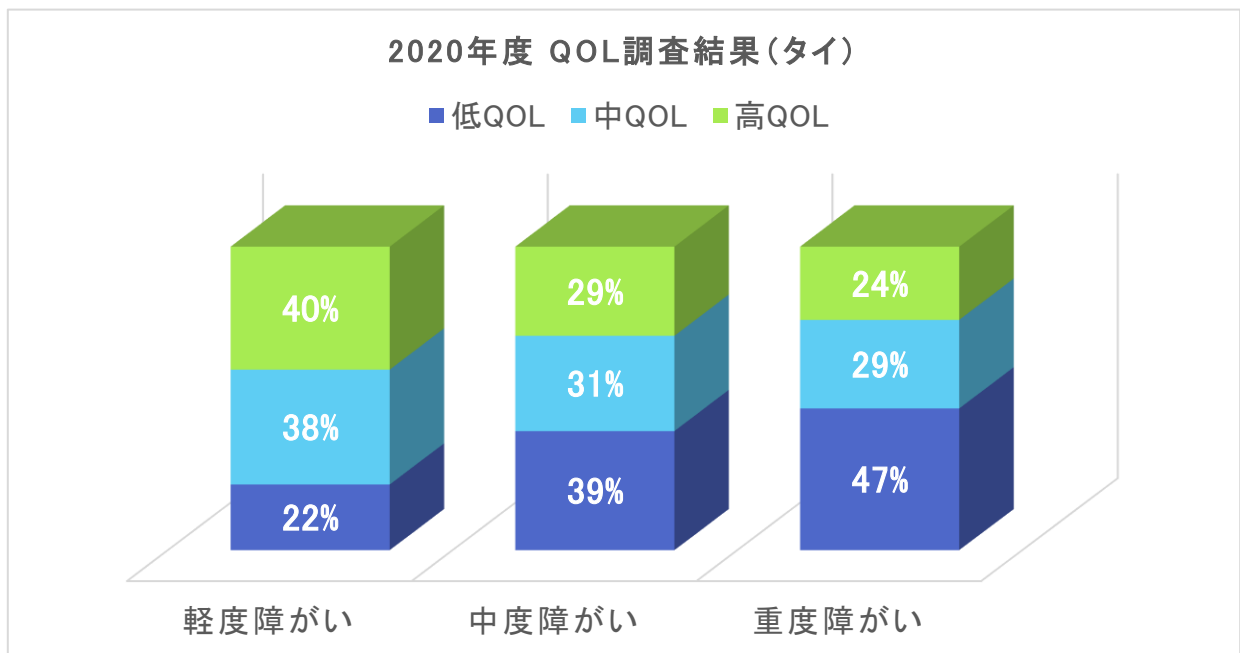
◆ 回答者の内訳(人数)

	親	祖父母	叔父叔母	兄弟姉妹	教師	その他
タイ	41人	25人	2人	0人	2人	0人
インドネシア	74人	2人	0人	2人	0人	22人
合計	115人	27人	2人	2人	2人	22人

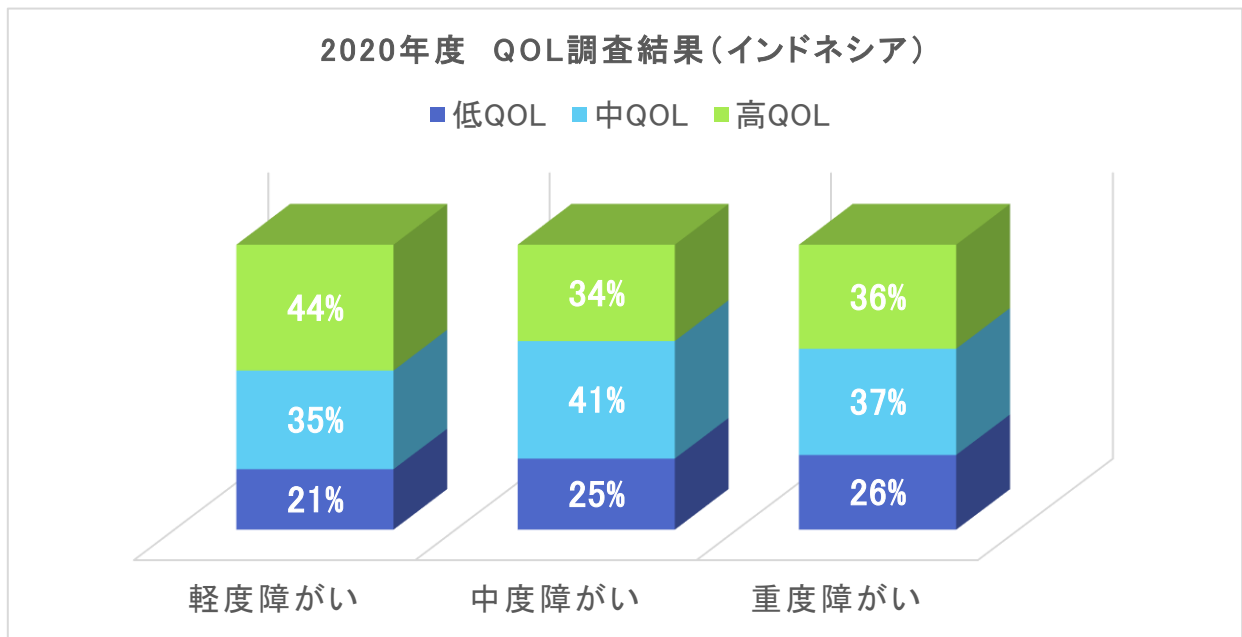
4. 結果

1) 全体 QOL レベル

1-1) タイ



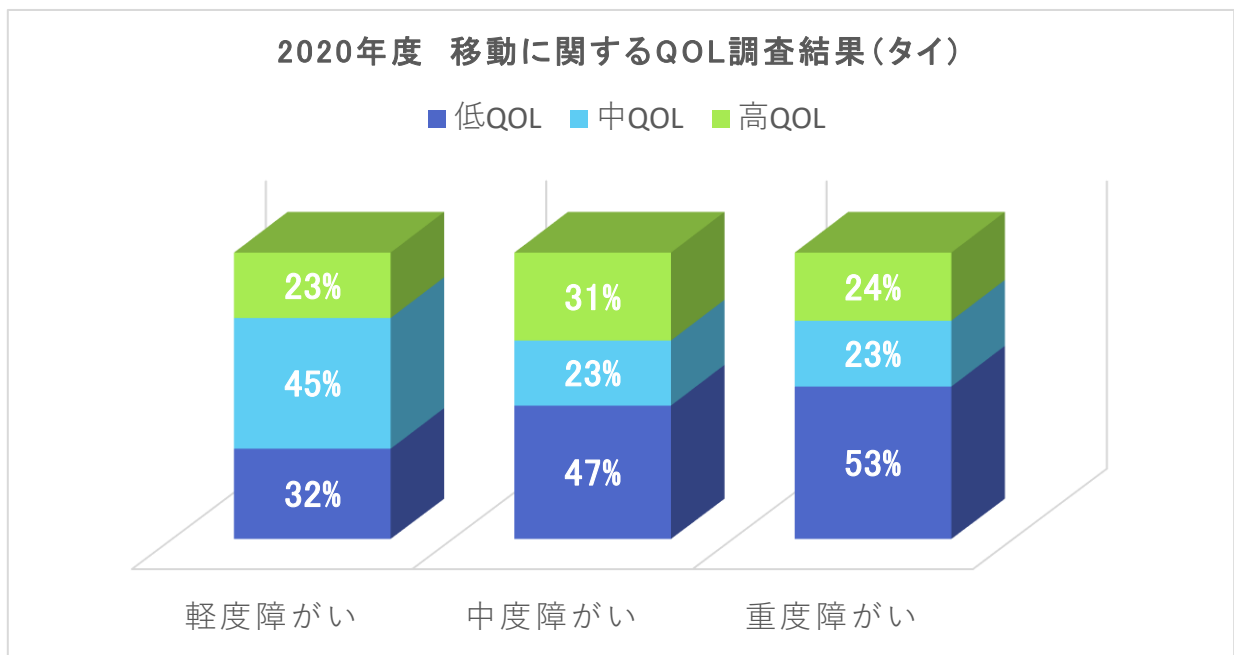
1-2) インドネシア



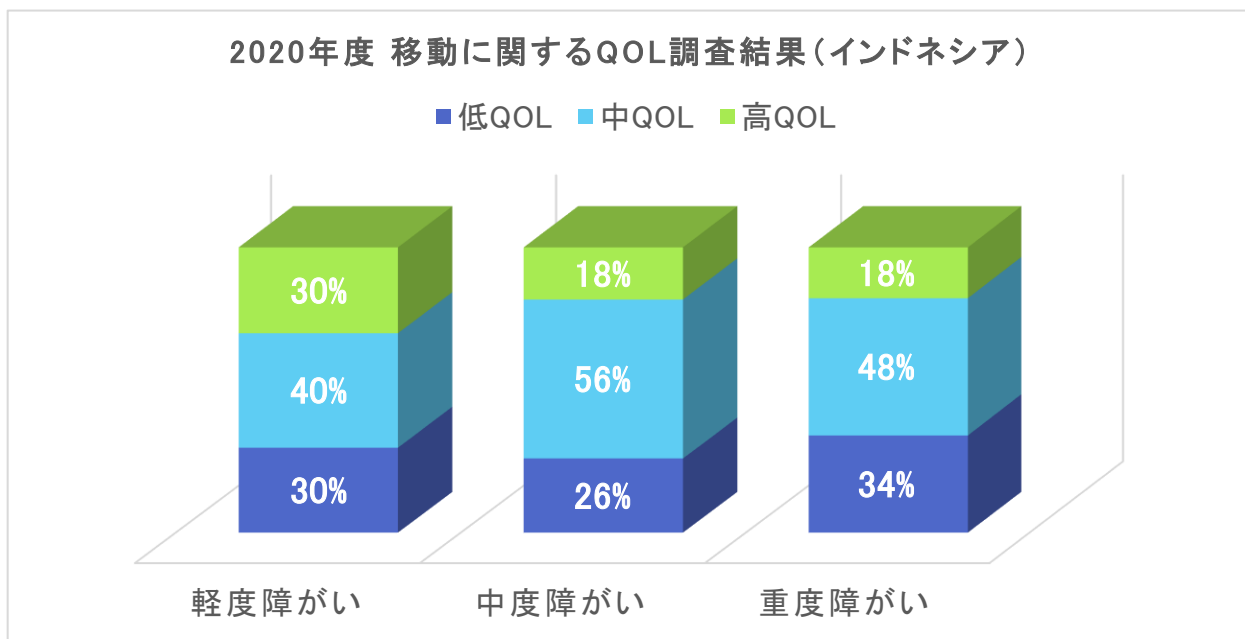
調査結果によると、「QOL レベルが高い、または非常に高い」と回答した重度障がい児の割合がタイ 24%、インドネシア 36%であったのに対し、軽度障がい児ではタイ 40%、インドネシア 44%と高くなる傾向があった。とくに、タイの重度障がい児のおよそ半数が、「QOL レベルが低い、または非常に低い」と回答しており、改善に取り組むべき課題である。

2) 移動に関する QOL レベル

2-1) タイ



2-2) インドネシア



移動および交通手段に関するQOLレベルに注目してみると、「QOLレベルが高い、または非常に高い」と回答した軽度障がい児の割合が、タイで40%から23%へ、インドネシアでは44%から30%へ減少している。このことから、障がいの程度に関わらず移動や交通手段の問題はQOLレベルを下げる主要な要因であり、引き続き取り組むべき課題であると考えられる。

以上